

第 2 学年 英語科学習指導案

日 時 平成 16 年 9 月 22 日（水）

場 所 2 年 A 組教室

学 級 2 年 A 組（男子 17 名、女子 12 名）

指導者 山館明美

1 単元名 Unit4 Homestay in the United States（東京書籍 New Horizon Book 2）

2 単元について

（1）教材について

Unit4 では「ホームステイ」について理解させ、教師や生徒の体験談から、学習内容への興味を持つことにより異文化との相互理解を図る。ケンのホームステイ先での朝の会話や、ユカとカル口のホストファミリーへの不満を通して、より快適な日々をおくれるように自分から積極的にコミュニケーションを図る態度を考えさせる。なかなかホームステイといっても生徒にとって現実味のない話題になりかねないので身近な感覚で考えられるように日常的な文化の違いを細かく紹介していく。文法的には have to, will, must を扱う。その中で、have to と don't have to の違いや、be going to と will の関係、have to と must の関係、そして don't have to と must not の違いに触れていく。既習の can を使って助動詞の使い方を確認する。また、口語的な表現も盛り込まれている。

（2）生徒について

生徒は極めて明るく積極的に学習に取り組むことができる。男女ともに協力して課題に取り組める。男子の中には、流れについてくるのがやっとの生徒もいるがコミュニケーション活動などでは班で協力して楽しんで学習している。女子は英語に興味・関心が高く、理解力もあるのでどの活動においても積極的である。ゲーム的な活動になると、ことのほか仲間意識が高まり班対抗形式になると積極的に取り組むことから本時はコミュニケーションへの関心・意欲・態度の向上を図りながら自分たちの言いたいことを英語で表現する力を引き出していくように支援をしていきたい。

（3）指導について

ホームステイについては度々話題に上がることなので日常レベルでの文化の違いに触れることによって興味・関心を集中させたり、国際的な考えを伸ばしたいところである。ホストファミリーの一員になるということを前提に、意見をはっきりと人に伝えることの大切さにも触れたい。そして、have to と must の関係や be going to と will の関係を明らかにして定着させ、それを応用した例題などにも取り組ませたい。また don't have to と must not の違いを明らかにした形で印象づけていきたい。

3 単元目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・ have to や will, must を正しく使って、ゲームに参加することができる。
- ・ 外国での習慣の違いを理解し、意思表示の重要性を理解できる。

【表現の能力】

- ・ have to や will, must を使って伝えたいことを文にすることができる。

【理解の能力】

- ・ have to や will, must の形・意味・用法を正しく理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・ ホームステイについて知り、理解を深める。
- ・ have to ・ will ・ must を用いた文の形・意味・用法を理解する。

4 指導計画

時間	学習活動	評価基準			
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	ホームステイについて知り、考える			have to, don't have to を用いた文の形・意味・用法を理解できる。(テスト、定期テスト)	ホームステイについて知り、ガイドブックの内容を理解できる。(観察、授業中・定期テスト)
2	have to, don't have to を使う。	have to, don't have to の用法を使って質問や応答ができる。(観察、授業中)	have to, don't have to の用法を用いて作文できる。(観察、授業中)		
3	ホームステイ先での様子や習慣の違いを知る。	外国の習慣の違いを理解できる。(観察、授業)		will を用いた文を理解して簡単な対話ができる。(観察、授業中)	
4	will を用いた文を使う。		will を使って作文できる。(観察・テスト、授業中・定期テスト)		will は未来を表すことを理解できる。(テスト、定期テスト)
5	外国の暮らしについて知る。				外国の暮らしについて知り、理解する。(観察、授業中)
6	must を用いた文を使う。			must の意味・用法を理解できる。(観察、定期テスト)	have to との書きかえが可能なことを理解できる。(テスト、定期テスト)
7	Unit 4 の復習(本時)	have to や will, must などを使ってゲームに参加できる。(観察、授業中)	have to や will, must などを使って言いたいことを言えたか。(観察、授業中)		

5 本時の指導

(1) 本時の目標

have to / don't have to / must / must not などを使い分けて説明したり、質問したりできるようにする。

コミュニケーション活動の時に積極的にゲームに参加する。

(2) 具体的評価規準

	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要すると判断される生徒への支援
関心意欲態度	会話を長く続けようと工夫したり、答えを導き出すために班で協力して積極的に会話することができる。	答えを導き出すために班で協力して会話に参加できる。	何が話題になっているのかゲームの流れを把握させ、班員としての役割をこなすことができるようにアドバイスする。
表現	既習文法を含め、新出文法を使ってスポーツやゲームのルール説明をしたり、答えを導き出すため積極的に質問することができる。	～しなければならない、～しなくてもよい、～してはいけない、という内容を区別しながら英語で説明したり、質問することができる。	何が話題になっているのか動詞や目的語、班に協力できる支援をする。

(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入	1. あいさつ 2. Reading (p.38 ~ p.41) 3. Warm-up プリント ・ 口頭質問に記述応答 ・ 新出単語 ・ 穴埋め問題 4. 既習文法の復習 5. 課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気よく正確に読む ・ 前時の復習を盛り込んで出題 ・ 回収前に口頭問題解説 ・ 時間をあまり取らない ・ 後に続くのは動詞の原形であることに気づかせる。 	
	スポーツやゲームのルールを英語で説明しよう		
展開	6. デモンストレーション 7. ゲーム開始 ・ 順序を決めて発表 ・ メモをとる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ゲームの説明 ア. 5班のうち 1 班が出題班になる。 イ. 出題班は好きなスポーツやゲームを 1つ選んで、そのルールを ~ の文法を使って説明し、何のスポーツ、又はゲームのことを言っているのか推測させる ウ. 他の班はさらに英語で質問をしながら、答えを当てる エ. より多く答えを当てた班の勝ちとする </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が出題し班毎に質問させる ・ ゲームの方法を理解させる ・ 出題する側と答える側へのルールを明確にする ・ 班対抗にする ・ 説明文は初め 1 ~ 2 文ぐらいにして、他の班に質問させる ・ 質問は必ずローテーションのようにして全員が発言するようにするので予想される質問や、それに対する応答文を予め考えておくことを勧める ・ 班毎にメモができるように記録シートを準備する ・ 初出の一般動詞などには配慮する 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 既習の文を使って積極的に説明・質問しようとしているか 【関心・意欲】 </div> <p>A. 会話を長く続けようと工夫したり、答えを導き出すために班で協力して積極的に会話することができる。</p> <p>B. 答えを導き出すために班で協力して会話に参加できる。</p> <p>C. 何が話題になっているのかゲームの流れを把握させ、班員としての役割をこなすことができるようアドバイスする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 既習事項を適切に活用し、説明・質問ができるか【表現】 </div> <p>A. 既習文法を含め、新出文法を使ってスポーツやゲームのルール説明をしたり、答えを導き出すため積極的に質問することができる。</p> <p>B. ~しなければならない、～しなくてもよい、～してはいけない、という内容を区別しながら英語で説明したり、質問したりできる。</p> <p>C. 何が話題になっているのか動詞や目的語、班に協力できる支援をする。</p>
終末	8. 自己評価 9. あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互評価も入れながら、友達の良さにも気づかせる。 	

